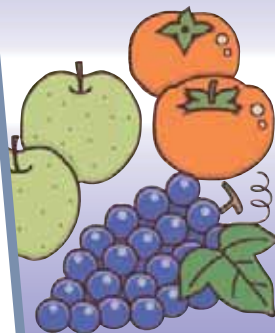




果樹栽培についてラオスの関係者に指導する草の根技術協力専門家



草の根技術協力の現状と課題

草の根技術協力事業は、日本のNGO、大学、地方自治体、及び公益法人の団体等がこれまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した、途上国への協力活動をJICAが支援し、共同で実施する事業です。

具体的には、まず提案団体から「事業提案書」を提出していただき、これに基づき、JICAが審査・選考し、案件採択内定の通知を出します。その後、案件の実施について、相手国政府の了解を取付けた後、JICAとの業務委託契約を締結していただき、案件が実施されます。

開発途上国の地域住民の生活に直接役立つ事業を対象とし、コミュニティ開発、社会的弱者支援、ジェンダー平等推進、保健医療、所得向上支援、人材育成、自然資源の持続的利用等の分野での事業が想定されています。なお、事業の対象国はJICA海外機関が設置されている国々で、世界70カ国以上に及んでいます。

以上のように、草の根技術協力事業では、人を介した「技術協力」であること、開発途上国の人々の生活改善・生計向上に直接役立つ保健や教育といった基礎的な生活分野であること、日本の市民に対して国際協力への理解・参加を促す機会となること、の3点を特に重視しており、その活動内容には、人の派遣・配置、セミナー・研修、資機材の調達、小規模な施設建設などが含まれます。

中国地方5県においては、NGO、大学、地方自治体、公益法人等による国際協力活動が比較的活発に行われておりますので、各団体から毎年多くの事業提案書がJICA中国に寄せられています。

案件採択までに時間がかかりすぎる、経費の精算等諸手続きが複雑すぎるなどの課題もあり、これらの改善を進めているところです。また提案団体とJICAの双方にとって連携のメリットが大きい一方で、双方の意識の相違が見られることもあり、スタート時点で十分な話し合いが必要です。

この事業は、JICA全体の予算規模から言えば、現状は1パーセント前後を占めているに過ぎませんが、グローバルレベルでの社会開発問題を解決していくには、市民社会との協力という視点が不可欠であり、また草の根事業で扱っている貧困削減や環境問題、女性支援などは、NGOとのパートナーシップによる協力が欠かせません。このような意味および地方からの国際化という観点からも、JICAの国内機関にとっては重要な事業です。

最後に申し上げたいことは、この事業が、提案団体による草の根レベルでのきめ細かな援助が期待でき、人々を中心に据え、人々に確実に届く援助、社会的に弱い立場にある人々、生命や生活・人間としての尊厳が危機にさらされている人々などに対して真に役に立つ援助、つまり「人間の安全保障」の概念に基づく協力を具体化する上で、きわめて有力な援助ツールとなり得る事業と言えることです。

JICA 中国国際センター所長 生井 年緒

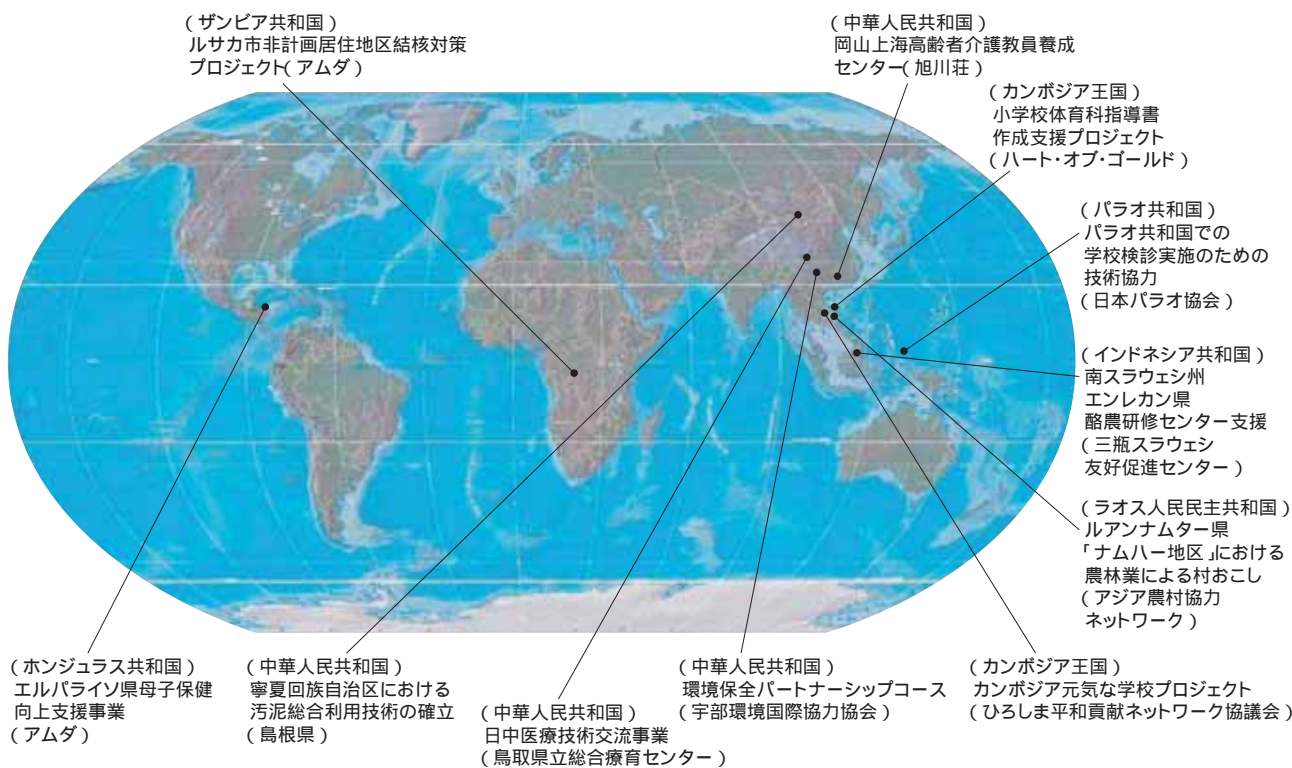
草の根事業一覧

タイプ	草の根支援型	草の根パートナー型	地域提案型
募集期間	随時募集	年2回募集	年1回募集
提案団体	国際協力の経験を有するNGO・大学等	国際協力の経験を有するNGO・大学等	地方自治体等
特徴	国際協力の経験は少ないが、今後、熱意を持って本格的に国際協力に踏み出したいと望む団体からの提案が多い。	開発途上国で国際協力のある程度(2年以上)の活動実績があり、様々な技術や経験を有する団体からの提案が多い。	地方自治体や、自治体と連携する組織で、地方で培われた地元の技術や経験を活かした人材の派遣、研修員の日本への受け入れを中心とした事業が多い。
事業規模	事業の規模は1案件あたり3年以内で事業総額1,000万円以下。	事業の規模は1案件あたり3年以内で事業総額5,000万円以下。	事業の規模は1案件あたり3年以内で、1年度間の事業費が450万円以下。

JICA中国による草の根技術協力事業

JICA中国では、11件の草の根技術協力事業を実施しています。事業実施が内定され、実施を待つ案件・JICAによる事業内容審査中の案件を含めると、総数は13件に上ります。中国地方の団体とJICA中国との共同事業として、現在アフリカのザンビア共和国をはじめ隣国の中華人民共和国まで8カ国で、草の根技術協力事業が実施されています。以下に3メニューの事例を紹介します。

中国地方の団体とJICA中国とが実施する草の根技術協力事業



草の根協力支援型

「パラオ共和国での学校検診実施のための技術協力」
～日本パラオ協会～

パラオ共和国では、糖尿病などの生活習慣病が問題化されている。このような背景のもと、これらの病気予防と自己の健康管理を学童期から根付かせる為に、2005年11月に開始された。学校検診の実施に向けて、専門家を派遣し、学校保健関係者に検診方法について技術移転を行った。本協会および他国の援助により、現在は各学校に検診器具が配置され、健康診断が定期的に行われるようになった。しかし、まだ学童自身の受診率が低いことからその改善に取り組んでいる。



学校検診尿検査キットを不思議な目で見る現地関係者

草の根パートナー型

「ルサカ市非計画居住地区結核対策プロジェクト」
～特定非営利活動法人 アムダ～

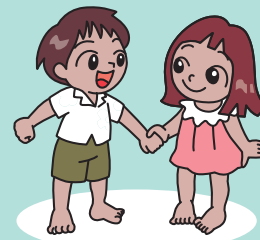
ザンビア共和国は、世界で最も深刻なHIV/AIDSと結核の問題を抱える国の一つで、同国の成人(15～49歳)人口における感染率は17%と世界で7番目に高く、とりわけ首都ルサカ市のような都市部における感染率は25%(4人に1人)にも達する。これに伴い、主要合併症である結核の患者も約4倍に増加しており、多くの命が奪われている。特に、人口が密集し、劣悪な衛生環境にあるルサカ市の非計画居住地区においては、結核の蔓延が住民の健康への大きな脅威となっている。

これに対して、本事業は、ルサカ市保健局と協力し、2つの非計画居住地区(ジョージ地区・カニヤマ地区)において、結核治療サービスの向上と感染予防を目指し、2005年7月から2年半の予定で実施されている。「結核治療サポーター」と呼ばれるボランティアを育成し、DOTS(直接監視下短期化学療法)を通じて、コミュニティレベルの効果的な治療を支援している。さらに、同サポーターにより地域住民に対して結核・エイズに関する保健教育を実施し、感染予防の取り組みも行っている。こうした活動の結果、結核の完治率が約25%向上し、新規患者数も約20%減少している。

地域提案型

「カンボジア元気な学校プロジェクト」
～ひろしま平和貢献ネットワーク協議会～

カンボジア国では、ポル・ポト政権時代の混乱により、学校教育・医療行政が大きな損失を受けた。本事業の対象地域のシェムリアップ州でも、内戦の傷跡は今も大きく残っている。このような中、被爆から立ち上がった経験を紛争終結国等に活かす平和貢献事業の一つとして、広島県・ひろしま平和貢献ネットワーク協議会が2005年11月から3年間の計画で、カンボジアに「元気な学校」を作ることを目指す。このプロジェクトを立ち上げた。地域提案型が掲げる地域の経験を開発途上国に活かすべく、県下の有志の教育・保健の専門家を日本から現地に派遣し、学校経営や教員の指導能力の向上、さらに保健教育の普及を目標に現地の小学校の校長・教員に研修を行っている。現地では、事業対象地域の学校の校長らが研修を基に学校経営計画を自主的に作成する段階に達しており、自立に向けた活動が展開されている。



あなたの街のJICA国際協力推進員

JICA国際協力推進員とは?

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。地方自治体、NGO、教育関係、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役です。

「JICAって、どんなことをしてるの?」「青年海外協力隊に参加したい!」「開発途上国について、知りたい!」「開発教育ってなに?」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。

国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでがんばっている人、お気軽に私たちに声をかけてください!

島根県

(財)しまね国際センター

TEL:0852-31-5056
FAX:0852-31-5055
配置先住所:〒690-0826
島根県松江市学園南1-2-1
くびきメッセ2F
E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp
URL: http://www.sic-info.org/

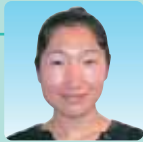


長富 邦恵
青年海外協力隊OG
派遣国:バングラデシュ
職:家畜飼育

山口県

(財)山口国際交流協会

TEL:083-925-7353
FAX:083-920-4144
配置先住所:〒753-0811
山口県山口市吉敷下東4丁目17番1号
E-mail:jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp
URL: http://www.yiea.or.jp/

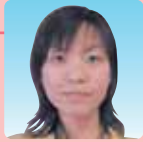


鈴木 博子
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職:野菜栽培

広島市

(財)広島平和文化センター

TEL:082-242-8879
FAX:082-242-7452
配置先住所:〒730-0811
広島市中区中島町1-5
E-mail:jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp
URL: http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi



井 尚子
青年海外協力隊OG
派遣国:コスタリカ
職:観光業

広島県

(財)ひろしま国際センター

TEL:082-541-3777
FAX:082-243-2001
配置先住所:〒730-0037
広島県広島市中区中町8-18
広島クリスタルプラザ6F
E-mail:hic06@hiroshima-ic.or.jp
URL: http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/



白 築 健
日系社会青年ボランティアOB
派遣国:ポリビア
職:日系日本語学校教師

鳥取県

(財)鳥取県国際交流財団

TEL:0857-31-5951
FAX:0857-31-5952
配置先住所:〒680-0947
鳥取県鳥取市湖山町西4-110-5
鳥取空港国際会館1F
E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp
URL: http://www.torisakyu.or.jp/ja/index.html



渡辺 由美
青年海外協力隊OG
派遣国:スリランカ
職:保育士



岡山県

(財)岡山県国際交流協会

TEL:086-256-2917
FAX:086-256-2489
配置先住所:〒700-0026
岡山市奉還町2-2-1
E-mail:jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp
URL: http://www.opief.or.jp/



武藤 理恵
青年海外協力隊OG
派遣国:ブルガリア
職:日本語教師

インドネシア国エンレカン県酪農研修センター運営支援プロジェクト



特定非営利活動法人
三瓶スラウェシ友好促進センター
事務局長 原 康 二

南スラウェシ州エンレカン県は標高150~2,500mの山間部に位置し、酪農適地として過去に住民が乳牛の導入を試みたことがありました。しかし、飼養管理技術(乳牛を育てる技術)が未熟であったため、うまく行きませんでした。平成11年、留学生受入れをきっかけにエンレカン県との交流が始まっていた島根県大田市三瓶町に、当時のエンレカン県知事が自ら足を運び、「貧しい村の若者流出が深刻。歯止めをかけるために農業振興に力を貸して欲しい」と訴えました。

これを受けて1年後、大田市三瓶町に、三瓶スラウェシ友好促進センターが設立され、地元の酪農家有志がエンレカン県で飼育農家の指導を開始しました。その後、外務省のNGO支援無償を受けて、現地に酪農研修センターを建設しました。この研修センターの自立的な運営のためには研修指導者の育成が必要であり、JICAの草の根技術協力事業として人材の育成支援を行うことになりました。現在、2年目の活動を実施しているところです。研修センターやエンレカン県の関係者の自立に向けた意識も芽生えて、研修指導者が酪農家への研修を開始するなど、少しずつではありますが、着実に成果が、現れてきていると思います。



研修員に囲まれて

上海での高齢者介護教員養成事業



社会福祉法人 旭川荘
プロジェクトマネージャー
板 野 美佐子

本事業は平成16年に始まり、平成17年からはJICAの草の根技術協力事業として、JICAとの共同事業で上海にて行っています。

本事業通算4年目の今年は、4月から約1ヵ月半、上海で「基礎講座」を行い、その後7月17日から12日間の日程で旭川荘において「実習講座」を開催しました。これらの講座に参加した20名の研修員は10名が上海、残る10名は江西省からの参加者で、本事業では、はじめて日本で「実習講座」に参加しました。

中国では急速に高齢化が進み、介護問題は重要課題であるため、介護の専門職に大きな期待が寄せられています。江西省から参加した田麗春さん(36歳)は、「『人間本位』の介護サービスの理念をもとに、高齢者がもっとも必要とする介護の提供をしている。高齢者を尊重し、残存機能が最大限活かせるような福祉用具を活用している。高齢者にとって安らかな老後となるために、介護福祉士が奉仕の精神で接している。介護技術の科学性が、今後重要になる。など、旭川荘で学んだ介護への理念、知識、技術を活かし、中国の高齢者に満足してもらえる介護従事者を中国で養成したい」と語っています。

いま江西省紅十字会からは、JICAと旭川荘の共同で、今後、江西省で介護教員の養成をして欲しいとの強い要望をいただいています。私たちは平成16年度から高齢者介護教員養成に着手し、これまでに養成した教員は81名(本年度も含む)、その教員が養成した介護従事者は180名(本年度も含む)にのぼります。



岡山 - 上海高齢者介護教育センター開講式

各県 国際協力推進員の活動

鳥取県

「鳥取県国際理解教育研修会」が開催されました！(8/25)

鳥取県教育委員会からのご後援をいただき、JICAの行う開発教育支援事業(「教師海外研修」と「青年海外協力隊現職教員特別参加制度」)に参加された先生方の帰国報告と授業実践例の発表が行われました。

講師には今年度教師海外研修に参加された山崎知代子先生、平成17年に同じく教師海外研修に参加された持井暁美先生、そして青年海外協力隊現職参加者の谷田孝之先生(ニジュール/小学校教諭)をお迎えしました。現地での様子や活動内容を始め、帰国後の日本の学校教育現場への還元等、生の声を聞くことが出来ました。また谷田先生からは途上国の現状や、日本とは違う文化の中で生活し感じたこと、活動の苦労や喜びを通し得た経験等をお話いただき、その体験をもとに現在教育現場で行っている実践例を紹介していただきました。

研修会後半のグループディスカッションでは、それぞれの参加者が考える国際理解教育や現場での話、悩み等色々な意見を交換することができ、短い時間でしたが一人ひとりの考えを共有し、今後のより良い教育や子ども達の成長、国際理解教育に繋がる機会となりました。



持井暁美先生による帰国報告

島根県

青年海外協力隊 出発表敬訪問(6/13)

6月13日(水)、青年海外協力隊として派遣される松原未央子さん(マーシャル派遣)と青戸俊恵さん(ニジュール派遣)が島根県庁を訪れ、松尾秀孝副知事と面会しました。職種は2人とも小学校教諭。「どんな子ども達が待っているのか、とても楽しみです。2年後、現地の人と思われるぐらい、しっかりとけ込んで来たいと思います」と副知事に笑顔で抱負を語る隊員達は、とても頼もしく感じられました。

青年海外協力協会中国ブロック会議IN島根(6/30~7/1)

6月30日(土)~7月1日(日)まで、中国5県から青年海外協力隊OV約80名が島根に集い親交を深めました。プログラムは、アフリカのリズムやダンスの楽しさを体験できるものや竹でつくるパームクーヘン作り、木工、ランプシェード作り等、島根県OVを中心に自分達の特技や出来ることを披露しながら、集った皆と一緒に楽しむことのできる企画となりました。今後も島根県内の皆さんと一緒に、楽しめる企画をやっていきたいと思っておりますので、ぜひご参加下さい。



中国五県OVらが島根に大集合

「地球のステージ」第5回島根公演開催！(8/25)

8月25日(土)ビックハート出雲にて、「地球のステージ」の公演を市民グループ「たのようクラブ」、島根県青年海外協力協会、JICA中国共催で開催しました。この公演では、世界52カ国で医療ボランティアとして救援活動を展開している桑山紀彦さんが、救援に行かれたジャワ島中部震災の様子やパレスチナの少年達との出会いなど、貧困や争いの中で生き抜く人々の明るくたくましい姿を、ライブ音楽と大画面の写真映像で紹介しました。桑山さんが高校時代に自転車で日本一周をした時の話や、そこから世界へと繋がっていく様子など、参加した中学生や大学生の方々からも大きな反響を頂きました。島根県での公演は5回目、入場者数は140名以上と、多くの方々に参加して頂きました。今年度の島根県「地球のステージ」は、10月1日(月)に出雲市立第三中学校、11月17日(土)に安来市市民会館で開催されます。ぜひ、皆さんも足を運んで下さい。

岡山県

倉敷市の子どもたちがJICA中国を訪問

JICA中国の国際理解教室に、倉敷の子どもたちが参加しました。各国の民族衣装ファッションショーや体験型ワークショップ「世界が100人の村だったら」、エスニック料理バイキングなど、一日盛り沢山。特に好評だったのは、アラブから来たJICA研修員たちとの交流でした。国際理解教室についての詳細は、JICA中国ホームページをご覧ください。
<http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/kaihatsukyoiku/index.html>



目をきらきらさせてJICA研修員と触れ合う倉敷の子どもたち

岡山と世界をつなぐ ~草の根美術交流~

JICA中国が岡山県と共同で開催した第一回「世界の子どもの絵画展(平成18年10月)から、草の根交流の芽が出ました。絵画展に参加したブルガリアの学校から声があがり、岡山芸芸館高校との美術交流へと発展したものです。今年度の「世界の子どもの絵画展」は、10月13~15日に倉敷イオンショッピングセンター内イオンホールにて開催。アフリカダンスイベントなども同時開催！ご来場お待ちしております。

岡山県 JICA ブログ

昨年度より始まった岡山県 JICA ブログ。岡山県出身または在住の元青年海外協力隊員と派遣中隊員などの関係者の方を対象に、情報発信しています。岡山県 JICA デスクに集まってくると耳より情報や国際協力前人(講師)募集のお知らせをしています。
<http://okayamadsk.exblog.jp/>

広島県

福山市教職員研修で「ウムヨム村のブタの一生」を紹介

7月30日、福山市教育委員会が開いた国際理解教育講座に市内の小・中学校の教員約40人が集まりました。この講座に JICA 中国が講師派遣を始めて3年目。今年は、広島県配置の JICA 国際協力推進員がファシリテーターを務め、参加者は「地球生活体験学習」教材の1つ「ウムヨム村のブタの一生」を体験しました。この教材は、タイ北部のウムヨム村で2年間活動した青年海外協力隊員の体験を基に作成されたものです。ナグマばあさんに大切に飼われていたブタが、ある日、ナグマばあさんの病気を治す儀式で食べられるという少し悲しい物語です。教員の皆さんは、ブタやナグマばあさん役を寸劇で演じて、ブタの気持ち、命の大切さを考えました。

青年海外協力隊員が開発途上国の現場で実際に体験したエピソードを基に開発された「地球生活体験学習」教材は、「ウムヨム村のブタの一生」を含めて現在6種類、社団法人青年海外協力協会(JOCA)が発売しています。学校の授業などで、ご活用ください。

http://www.joca.or.jp/content/education/info_text.html



劇の発表を準備する参加者たち

「大学生のための開発教育ファシリテーター養成講座」まもなく開始

財団法人ひろしま国際センター(HIC)では、広島県内の大学生を対象に新たに「開発教育ファシリテーター養成講座(国内・海外研修)」を始めます。10月には、県内6大学でワークショップ体験講座を実施。希望する学生は、続く11月からの国内講座(8回程度)を受けた後、来年2月のカンボジア・スタディツアー(JICA・HIC共催)に参加します。詳細は、HIC ホームページをご覧ください。
<http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/>

広島市

『南米での原爆展で作られた「折り鶴」がヒロシマに』(7/19)

任国でそれぞれ「原爆展」を開催した日系社会青年ボランティアの帰国隊員3名、小林直樹さん(アルゼンチン派遣・職種:青少年活動)久保真希子さん(パラグアイ派遣・職種:日本語教師、白石素子さん(パラグアイ派遣:日本語教師)が、「開催報告」「折り鶴奉納」のため広島に来ました。

3名には、原爆展開催までの経緯、現地の方々の感想、開催者として感じたことなどを報告していただきました。この日の様子は、JICA ホームページ「『人』明日へのストーリー」で「アルゼンチン原爆展」で作成された折り鶴を原爆の子の像へ奉納

http://www.jica.go.jp/story/feature/feature_09.html



「アルゼンチン原爆展」で作成された折り鶴を原爆の子の像へ奉納

『はばたけ!! 未来の自動車整備士 特別募集説明会の開催』(7/23)

広島国際学院大学で、自動車短期大学の学生を対象に青年海外協力隊「特別募集説明会」を開催しました。講師、山本真さん(フィジー派遣・職種:自動車整備士)には、現在、青年海外ボランティアで自動車整備士が必要とされていることやフィジーの国について話していただきました。また、各国で活躍する隊員活動のビデオ視聴や、数カ国の民族衣装の試着なども体験してもらい、異文化にふれてもらう楽しい説明会となりました。学生さんからの感想の中には、「協力隊のことは初めて知ったが、興味が湧いてきた」「経験を積み自信が出てきたら、協力隊参加を考えてみたい」といった声もありました。今はまだ10代のみなさんですが、今回話を聞かれた学生の中から、将来協力隊として海外にはばたく方がいらっしゃるかもしれません。

山口県

参加型! 国際理解教育研究大会

海外の日本人学校教員経験者の体験や、帰国後に取り組んでいる国際理解教育の実践報告、JICA 出前講座の体験、授業に活かせる国際理解教育アクティビティを体験できるワークショップ、全員参加型のパネルディスカッションと、盛りだくさんの山口県国際理解教育研究大会が8月20日、山口市内で開催されました。日本人学校教員経験者だけでなく、これから日本人学校教員を目指す方、国際理解教育や海外に関心のある大学生、元青年海外協力隊他が参加し、充実した1日となりました。

モノ・情報などを使った国際理解教育ワークショップでは、講師の高見早苗さんが孔子の「人間は『聞いたことは忘れる』『見たことは覚える』『したことは理解する』」という言葉を紹介しました。参加者はアクティビティを体験し、国際理解教育の参加型学習の学びのプロセスの大切さを感じ、今後授業に活かせる簡単にできるアクティビティやアクティビティを作る・する際のコツなどを知ることができました。

最後のパネルディスカッションでは、『みんなであらう、日本と世界のこれからは』をテーマに「日本で感じる違和感や良さ」「よい子の基準、日本の子ども達は幸せか否か」「国際理解教育で伝えたいことや意義・役割」について、パネリストの意見を聞いたり、参加者同士が話し合っ



ワークショップ体験 ~みんなの子供のように目がキラキラ~

技術研修の窓

味道好!(おいしい!)



宇部環境国際協力協会事務局長
JICA市民国際協力推進員
丹羽 孝純

宇部市では1992年に中国威海市と友好都市締結をしてから、ちょうど今年で15周年を迎えており、毎年市民交流が活発に行われております。

当協会は宇部市と共催で「都市環境保全行政コース」「環境保全パートナーシップコース」として、2002年度から5年間に合計11名

のJICA研修員を友好都市の中国威海市から受入れました。

研修員は、「宇部方式」の理念や手法を中心に環境保全知識、技術等の研修を熱心に受講しました。また、休日には交流ボランティアの方々と山口県内の観光やデイスティ等色々な行事に参加しました。この日は阿知須公民館調理室に集まり、スーパーマーケットで仕入れた食材を使い交流ボランティアの方々と一緒に、中国式「餃子」作りをしました。中国の餃子は日本の焼き餃子と違って水餃子で、中国では春節やお祝い事の料理として、どこの家庭でも準備するそうです。時まさに5分咲きの桜の下で「餃子」を食べながら花見の宴をし、中国の

春節を思い出しながらリラックスできたと思います。

「如何味道吗?」「味道好!」「味はいかがですか?」「おいしい!」

研修員の宿泊ホテルと当協会事務所との距離は100m、研修の行われる市役所との距離は1kmと極めて近接しております。このため、研修員は移動に自転車を使用し通学(通勤?)します。宇部市リサイクルプラザが、市内で排出される廃棄自転車を補修し、新品同様の自転車として留学生、研修員等に貸与しているものです。温室効果ガス排出量削減にも寄与し、毎日サイクリング気分でも心も晴れやかな研修生活を送ることができたと思います。



宇部市内を自転車通学する威海市研修員



広げよう! 市民参加の輪



アジア農村協力ネットワーク岡山
会長
小林 勉

私ども「アジア農村協力ネットワーク岡山」は2001年12月に設立して、現在は主にラオスで活動しています。

現在、草の根技術協力事業をラオスで開始しようとしていますが、まず、どこで何をどのように展開するのかを明確にしなければなりません。ラオス北部は少数民族が多く居住する地域であり、人々は

伝統的な生活を営みながらも貨幣経済の大きな流れに巻き込まれ、現金を得るための過剰な山焼きや森林伐採が進みつつあります。未だ残る豊かな自然を次世代に引き継ぐため、彼ら少数民族を対象に、現金収入の道を築くということを「アジア農村協力ネットワーク岡山」は始めました。協力対象は、ルアンナムター県農林局と協議し、ナムハー地域とナレー地域に住むカム族とし、現在事業開始のための手続きをラオス政府と行っています。

この辺りは生物多様性保護区であり、自然環境を保護するために、焼畑区域が限定されるなど、森の利用に制限があり

ます。このような環境で、豊かな森、自然の恵みを持続可能な資源として利用するために、ラタンや繊維原料になる灌木など非木材森林資源の利用と、果樹による現金収入の道を探ることにしました。さらにナムハー地域にある対象村には、タイ・ラオス・中国を結ぶアジアハイウェイが開通することになり、ここに村の特産品を販売する日本という「道の駅」のような施設を作る計画を持っています。

このような活動は、対象村とルアンナムター県農林局に対する、我々の長年の取り組みにより培った信頼関係の上に成り立っており、主役は常に現地のラオス人です。継続は力なりをモットーに、今後とも活動を展開させていく所存です。



植林の成長調査

JICA海外ボランティア平成19年度秋募集「体験談 & 説明会」会場一覧【中国地方】

(参加費無料 * 予約不要 * 入退室自由)

青年海外協力隊



期日・開催時間	会場・会場までの交通	住所・電話	
鳥取	10月20日(土) 16:30-18:30	鳥取県立県民文化会館 JR鳥取駅 徒歩20分	鳥取市尚徳町101-5 0857-21-8700
	10月24日(水) 18:30-20:30	米子市文化ホール JR米子駅 徒歩2分	米子市末広町293 0859-35-4171
	10月22日(月) 18:30-20:30	石炭文化ホール JR浜田駅 徒歩3分	浜田市黒川町4175 0855-22-2100
島根	10月28日(日) 17:00-19:00	松江テルサ JR松江駅 徒歩1分	松江市朝日町478-18 0852-31-5550
	10月7日(日) 14:00-16:00	倉敷市芸文館 JR倉敷駅 徒歩15分	倉敷市中央1丁目18-1 086-434-0400
	10月15日(月) 18:30-20:30	岡山国際交流センター JR岡山駅西口 徒歩2分	岡山市春道町2丁目2-1 086-256-2917
岡山	10月21日(日) 16:30-18:30	岡山国際交流センター JR岡山駅西口 徒歩2分	岡山市春道町2丁目2-1 082-256-2917
	10月6日(土) 16:30-18:30	イコールふくやま 福山ロツツB2F JR福山駅 徒歩8分 駅より無料バス有	福山市西町1-1-1 084-991-5011
	10月14日(日) 16:30-18:30	広島市まちづくり市民交流プラザ 広電袋町電停 徒歩3分	広島市中区袋町6-36 082-545-3911
広島	10月23日(火) 18:00-20:00	広島大学大会館 JR西条駅より(バス15分 大会館前バス停)	東広島市鏡山1-4-5 082-424-6149
	10月25日(木) 18:30-20:30	広島市まちづくり市民交流プラザ 広電袋町電停 徒歩3分	広島市中区袋町6-36 082-545-3911
	10月12日(金) 18:30-20:30	スターピカだまつ JR下松駅北口 徒歩15分	下松市中央町21-1 0833-41-6800
山口	10月13日(土) 16:30-18:30	海峽メッセ下関 JR下関駅北口 徒歩7分	下関市豊前町3-3-1 0832-31-5600
	10月27日(土) 14:00-16:00	山口県教育会館 JR山口駅 徒歩15分	山口市大手町2-18 083-922-5766

シニア海外ボランティア

期日・開催時間	会場・会場までの交通	住所・電話	
鳥取	10月20日(土) 13:30-15:30	鳥取県立県民文化会館 JR鳥取駅 徒歩20分	鳥取市尚徳町101-5 0857-21-8700
	10月28日(日) 14:00-16:00	松江テルサ JR松江駅 徒歩1分	松江市朝日町478-18 0852-31-5550
岡山	10月7日(日) 17:00-19:00	倉敷市芸文館 JR倉敷駅 徒歩15分	倉敷市中央1丁目18-1 086-434-0400
	10月21日(日) 13:30-15:30	岡山国際交流センター JR岡山駅西口 徒歩2分	岡山市春道町2丁目2-1 086-256-2917
広島	10月6日(土) 13:30-15:30	イコールふくやま 福山ロツツB2F JR福山駅 徒歩8分 駅より無料バス有	福山市西町1-1-1 084-991-5011
	10月10日(水) 18:30-20:30	広島市まちづくり市民交流プラザ 広電袋町電停 徒歩3分	広島市中区袋町6-36 082-545-3911
山口	10月14日(日) 13:30-15:30	広島市まちづくり市民交流プラザ 広電袋町電停 徒歩3分	広島市中区袋町6-36 082-545-3911
	10月13日(土) 10:30-12:30	海峽メッセ下関 JR下関駅北口 徒歩7分	下関市豊前町3-3-1 0832-31-5600

お問い合わせは
中国国際センター(JICA中国)ボランティア係まで!
電話 082-421-6310 FAX 082-420-8082
E-mail: jicacic-jocv@jica.go.jp
HP: <http://www.jica.go.jp/>

JICAプラザへ行ってみよう!

JICA中国は、中国5県の国際協力窓口として「JICAプラザ」を設置しています。JICAプラザに一歩足を踏み入れると、開発途上国の衣装、人形、壁掛け、日用品など、たくさんの民芸品が目に入ります。これらは、開発途上国からの研修員の土産や、JICAスタッフが現地で購入したものです。珍しい楽器も多く展示しています。これらの民芸品や楽器はその場で手にとって触れたり、演奏体験していただくことも可能です。また、JICAプラザでは大きなパネルで開発途上国の人々の笑顔や生活の様子を展示しています。その他、JICAの業務をお伝えするパンフレットや書籍、それに開発途上国の様子が分かるビデオを数多く揃えています。書籍やビデオは貸出を行っています。JICAプラザ内にはゆっくりとくつろげるソファやテーブル、パソコンもあり、ご自由にご利用いただけます。皆様、JICAプラザにいらして下さい!



JICAプラザ



世界の民芸品

開発途上国で活躍中の 中国5県 JICA ボランティア・専門家

(2007年8月末現在) () 内は、専門家内数



県名	専門家	青年海外協力隊	シニア海外ボランティア	日系社会青年ボランティア	日系社会シニアボランティア	合計
鳥取県	5	13	3	0	1	22
島根県	9	20	5	0	0	34
岡山県	18	46	7	3	0	74
広島県	15	37	5	1	1	59
山口県	5	35	6	0	1	47
合計	52	151	26	4	3	236

お問い合わせ

独立行政法人国際協力機構 中国国際センター (JICA中国)

〒739-0046 広島県東広島市鏡山 3-3-1 ひろしま国際プラザ内(総務チーム)
TEL: 082-421-6300 FAX: 082-420-8082 E-mail: jicacic@jica.go.jp
URL: <http://www.jica.go.jp/branch/cic/index.html>

JICA中国ニュースのバックナンバーはHPからダウンロード出来ます!!
詳しくはこちらをご覧ください

<http://www.jica.go.jp/branch/cic/pages/whatscic/news.html/>

